

# 第4回 里山ウォークのご案内

11月13日(日)

里山ウォークを「里山部会」と「久重 natural チーム」で企画しています。秋の里山歩きをみんなで楽しみましょう。

●活動のねらい・・・

- ◆健康づくり
- ◆里山の晩秋を楽しむ
- ◆参加のみなさんとの交流

●コース・・・学校→川内神社→重倉公民館→久礼野公民館→学校 (4 km)

●集合場所・・・久重小学校正門

●日 程 **2022年11月13日(日)**  
 8:30～久重小学校 受付  
 8:50～オリエンテーション  
 9:00～出発  
 12:00 ゴール・解散



●準備物・・・お茶・しっかりシューズ・おやつ・タオル・上着で調整

●参加費・・・無料 (保険は連携協議会でかけます)

\*雨天の場合は中止。判断が難しい場合はスタート地点、学校の門に決定事項の貼り紙をします。合わせて久重地域連携協議会インスタグラム (kyuju.renkei) でもお知らせします。

## 道づくり

今年も9月第1、第2日曜日に久重地域の各地区の清掃活動「道づくり」が行なわれました。各班に分かれて、草を刈ったり、伸びた木を切ったり、草を集めたりしていました。(写真を一部分しか載せられなくてすみません)今年はこちらで草がたくさん生えて、草刈りも大変だったことと思います。地域住民の協力のもと、それぞれの場所がきれいになり、またくらしやすい環境になりました。

山に人の手が加わることで、ここに住む小さな生き物が住みやすい環境になり、自然と人と生き物との共存がこの豊かな久重の里山を保全しています。

コロナ禍、慰労会もありませんが、普段から各地区で行なわれている清掃活動や奉仕活動に感謝です。おつかれさまでした。



久礼野



久礼野



重倉



久礼野



重倉



久礼野

【編集後記】・・・まちづくり計画も防災計画もいよいよ文章化の段階に入りました。久重の未来を築く計画です。最後までみんなでつくりあげましょう。〇・・・

もたもた旅行の下見に土佐清水へ行ってきました。やっぱり遠い。昼食や買い物場所がない。散々な思いで帰ってきて、目的地を高松周辺に変更しました。(りん)

# 久重地域連携協議会



—第43号—  
 2022.10.25 発行  
 発行責任者：林照男  
 編集：広報委員会  
 高知市重倉1596-134  
 電話：090-4501-3190

## 久重豊穰祭3年ぶり復活

12/4 (日)

### 久重小運動会



秋晴れの10月2日、空に落下傘が飛び散るもと久重小運動会が開催されました。=撮影：山本寛子広報委員

### 里山ウォーク、もたもた旅行も

久重地域連携協議会は10月4日役員会を行い、「コロナ禍で2年間中止していた3回目となる久重豊穰祭を12月4日復活開催することを決めました。しかし、いまだコロナ禍にありどの程度の規模で実施するかは11月1日に実行委員会を開いて話し合うことになっていきます。

同じく2年間中止していた第4回里山ウォークを11月13日(日)（こどもファンドグループと連携で実施することとしました(11/4面に募集記事)。

また、もたもた旅行も11月20日(日)高松方面を目的地に実施することと定員20人で募集を開始しました(募集チラシをこのニュースに挟み込んであります)。

感染対策をしながらではあります。里山に活気が戻ってくることを期待しています。

# 豊穰祭は祭り

## ～過去2回を振り返る

第1回(2018年-300人)、第2回(2019年-350人)の盛り上がりから3年ぶりに久重豊穰祭が帰ってきました。絵画、写真、工芸、書道など個人や園児・生徒の作品が並び物産展やバザー、町内会の出店などでにぎわいました。舞台では、踊りや演奏などが発表され、人気の餅投げには地区外からもたくさんの方が駆けつけました。過去2回の豊穰祭を写真で振り返り、個人、団体の皆さんがそれらを思い出しながら第3回の準備に取り掛かっていただけたらと願っています。



舞台では保存会による元祖銭太鼓の踊りが披露されました。



小学校からは書道や「はらぺこあおむし」の発表がありました。



民謡クラブの音頭で参加者のよさこい踊り。



歴史写真展には、久重地域の昭和の暮らしを偲ばせる数多くの写真が展示されました。



絵画の出展もたくさんありました。



豊穰祭のサブタイトルも看板に書かれて入場口付近に掲示。



町内会からは食べ物の出店。



地域外の人に人気

祭りを盛り上げるための看板にも力が入りました。左から100本ののぼり旗。地区外へのアピールを狙った正蓮寺街道の立て看板。会場への親切な誘導案内板。そして、一番目立つ小坂峠の掲示板には目いっぱいポスター。



豊穰祭の一番人気餅投げ。第1回は千個、第2回は地元産もち米で2千個提供しました。



工芸品は個人、サークルから出展がありました。右はクラフトバンド(サークル)、左はステンドグラス(個人)。



子どもファンドからも活動発表の展示がありました。



保育園からは園児が描いた絵が展示されました。



## デジタル教室を開催

緑ヶ丘団地では、11月の一か月間で10回コースの「緑ヶ丘団地デジタル教室」を開催すべく現在募集を行っています。地元の川村祐太さんを講師にスマホ教室とパソコン教室を行います。まちづくり策定会議で身近なお困りごとを話し合った時スマホなどデジタル(情報機器)の操作に戸惑っているとの声がたくさん出されました。また、今年度の政府「高齢社会白書」では、「生きがいを感じている」という高齢者は、情報機器を使わない人が一割だったのに対し使っている人が三割と開きが出ていることが報告されました。情報機器を学び慣れることは、高齢者の世界を広げ、生きがいに影響を与えていることがわかりましたので、連携協議会では豊か

な生活を目指す共生社会推進事業の一環としてデジタル教室を検討していくことを役員会で話し合いました。残念ながら今年度は補助金事業での申請をしていなかったため、実施したいと考えています。緑ヶ丘団地での実践は、そのための参考になることは間違いないので大いに期待をしています。緑ヶ丘団地では、スマホは気になるけど使い方がわからないので持つかどうか迷っているという人のためにスマホを持たない見学者も参加対象としています。それも参考例になりそうです。豊穰祭などのイベントで事業収入があり財源が確保されれば、今年度内にも希望者の調査を行い教室を開催したいと考えています。

昨年7月17日から始動した第2期久重のまちづくり計画策定事業は、途中コロナで休止をはさみながら10月8日第8回策定会議を行い、策定委員による検討をいったん終えることとなりました。

まちづくり計画策定事業と並行して、今年度は自主防災連

### 地区防災計画策定も大詰め

今回の策定事業には、10人を超える小中高生が参加。グループワークでも討論の中心となり、発表者にもなるなど子どもたちの声がたくさん出される策定作業となりました。地域からも第1期を上回るたくさんの方が参加し、行政関係者も含めると毎回30人、50人の参加者で熱気にあふれた熱心な討論が続けられました。



第6回策定会議(6月)で福祉課題を討議

## 年明けの策定をめざして

11月からは編集委員による文書作成作業(編集会議)に入り、数回行った後、最後の策定会議で検討・了承を得たのち市長へ報告する運びとなりました。

10月17日には第6回役員会を行い、防災計画のグループ討議を終え文章化の作業に入ることになりました。その骨格的な内容は、まちづくり計画の中に盛り込まれることになっています。

## 久重型共生社会の取り組み事例

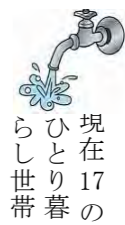
久重型共生社会の推進は、久重地域連携協議会の大きな課題となっています。その一環ともいえるべき取り組みが緑ヶ丘団地で11月から実施されようとしていますので紹介します。一つは、スマホやパソコンなどを学び少しでも慣れようとする「デジタル教室」でも一つは補助金を活用した「ひとり暮らし世帯の安否確認事業」です。デジタル教室は、緑ヶ丘団地での実践例を学びながら久重地域全体でも実施を検討していきたいと考えています。



## 安否確認事業

緑ヶ丘団地では、今年度から始まった町内会連合会の補助制度を活用して「ひとり暮らし世帯の安否確認事業」を11月から始めることとしています。同団地では独自の専用水道を運営しており、各世帯に量水器が設置されています。担当者を決め、週一回程度量水器のチェックを行うことにより安否確認を行うというものです。同団地では数年前にひとり暮らしの壮年が孤独死をできいながらしばらく発見ができて

なかったという経験をしており、それ以来安否確認の取り組みを模索していましたが、今年度から町内会連合会の補助制度が活用できることになったため11月からは始めることとです。現在17のひとり暮らし世帯に意向調査を行っており、不要と回答のあった人以外を対象にして実施することになっていますが、支え合いの団地づくり(共生社会の推進)と位置づけられた取り組みとなっています。



## まちづくり計画の策定

# グループ討議から編集会議へ